ISSN 1340-5411

アジア文化研究

2012年　6月　第19号

目　　次

【特別寄稿】
ふるさとを思う——国際アジア文化学会二十周年に寄せて—— …… 鍾　清漢 …… 3

【特集】二十世紀アジアへのまなざし
大正デモクラシー期の修身教科書に見る良妻賢母教育
——井上哲次郎編『女子修身教科書』を中心にして—— …… 姜　華 …… 5
「天羽声明」と日中外交 …… 楊　海程 …… 23
敗戦直後における在日朝鮮人の「帰還」
——大阪府による対応を中心にして—— …… 鈴木　久美 …… 39
文化大革命期における高等学校英語教科書にみる中国型国民像 …… 陳　志華 …… 59
「中国残留孤児」の老後保障を求める過程とその影響 …… 鍾　家新 …… 77
台湾の少年法院と明陽中学 …… 山田　美香・張　汝秀 …… 97

【論稿】
台湾におけるテレビ「政論番組」——その特徴と意義—— …… 賴　琇菱 ……115
蘇曼殊未完の小説「天涯紅涙記」について …… 渡邊　朝美 ……131
コーパス言語学の方法に基づく日中対照研究
——「推量」を表す中国語副詞の日本語訳を例に—— …… 方　斐麗 ……145

【研究ノート】
唯識思想に於ける涅槃と菩提について
——転依の思想とその歴史的展開を中心として—— …… 釋　依昱 ……163
対人認知と異文化コミュニケーション
——インターンシップにおける
キャリアカウンセリングへの応用—— …… 佐藤　恒雄・立川　聡子 ……177

【新著紹介】
崔淑芬著『中国少数民族の文化と教育』（中国書店） …… 天野　隆雄 ……197
駒澤大学社会学科坪井ゼミ編著
『ココロのバリアを溶かす
——ヒューマンライブラリー事始め』（人間の科学社） …… 嵐　義人 ……202

【追悼】
瑞宝中綬章、インド国民至高者賞の我妻和男先生を偲ぶ …… 鍾　清漢 ……205
巨星墜つ——深山幹夫先生を偲んで—— …… 天野　隆雄 ……208

【学会彙報】 ……210

国際アジア文化学会

Journal of Asian Culture Society International

No.19 June 2012

CONTENTS

SPECIAL CONTRIBUTION

Think of the Hometown ····· CHUNG Chinghan ····· 3

FEATURE ARTICLES

Education to Grow a Trophy Stepford Wife and its Real Image in the Time of Taisho Democracy —With an Focus on "A Textbook on Ethics for Girls" Edited by Tetsuji Inoue— ····· JIANG Hua ····· 5

A Study of Japanese and Chinese Diplomatic Relations: "The Amo's Statement" ····· YANG Haicheng ····· 23

"The Return" of the Korean after the Defeat in Japan —Focused on Correspondence by Osaka— ····· SUZUKI Kumi ····· 39

The Image of the Chinese People Presented in Secondary School English Textbooks of the Cultural Revolution ····· CHEN Zhihua ····· 59

The Process for Applying for Retirement Coverage and its Influence: The Living Conditions of Japanese Who were Born in China and Returned to Japan ····· ZHONG Jiaxin ····· 77

The Study of Kaohsiung Juvenile Court and Mingyang High School ····· YAMADA Mika / CHANG Juhsiu ····· 97

ARTICLES

The Television "Political Talk Program" in Taiwan —The Feature and the Significance— ····· LAI Hsiuling ·····115

On a Fragment of a Novel "Tianya Honglei Ji" by Su Manshu ····· WATANABE Tomomi ·····131

A Study on China-Japanese Corpus Linguistics —With Examples of the Translation of Chinese Adverbs Meaning "Prediction" into Japanese ····· FANG Feili ·····145

RESEARCH NOTES

The Discussion on Nirvana and Bodhi in Mind-only Thought ····· SHIU Yiyu ·····163

Intercultural Communication and Interpersonal Cognition —Application for an Internship in the Career Counseling— ····· SATO Tsuneo / TACHIKAWA Satoko ·····177

BOOK REVIEWS ·····197

MEMORIAL ·····205

Asian Culture Society International

コーパス言語学の方法に基づく日中対照研究
――「推量」を表す中国語副詞の日本語訳を例に――

方 斐麗

はじめに

近年、コンピューター・テクノロジーの飛躍的な発展により、自然科学はもとより、人文科学の諸分野でも思考や手段が急速に進んできている。特に自然科学に近いと言われている言語研究分野においては、コーパス（Corpus）による新しい研究法も可能になり、成果もあげられていて、二十一世紀の言語研究はコーパス言語学の応用により大きく進展されるだろうと考えられる。

日本語助動詞の〝ようだ〟、〝らしい〟、〝そうだ〟の三つの語は中国語の〝好像（hǎoxiàng）〟に訳せるため、中国人の日本語学習者にとって使い分けにくい表現の一つでもある。中国語は一字一概念の孤立語であるため、語形変化（形態変化）がなく、語順がより重要な意味を持ち、膠着語の日本語と違って、モダリティといわれる助動詞で推量を表すことなく、副詞や語気詞などを使って推量を表す。また、語本来の意味を分析することなくして、「推量」のみを見てきた従来の「推量」の副詞の意味の説明も不十分であるように思われる。例えば、以下の例を見てみよう。

（1）彼は風邪を引いたらしい。
　他好像感冒了。

（2）彼は帰ったようだ。
　他好像回家了。

（3）木村が来ないそうだ。
　木村好像不來。

例（1）、（2）、（3）に示したように、（1）、（2）、（3）の日本語の下線部の〝らしい〟〝ようだ〟〝そうだ〟の三形式はすべて中国語の〝好像〟という形式に対応していることがわかる。他言語との比較・対照を通して、個別言語としての中国語の特性を浮き彫りすることもでき、進んでは両言語の特性を明らかにすることも可能になる。日本語と中国語を対照してみることによって、日本語のほうがモダリティに関与するモダリティの形式の数も多く、その使い方も非常に分化・発達していることがわかる。

本研究の目的は、「推量」を表す中国語の副詞〝好像（hǎoxiàng）〟と日本語の〝ようだ〟、〝らしい〟、〝そうだ〟を見ることで、中国語と日本語の推量表現の習得に寄与する際の手助けにすることを目的とするものである。

1、先行研究及び研究方法

方（一九九五）及び中溝・小川・方（一九九五）では、日本語学と日本語教育の立場から、〝ようだ〟〝らしい〟〝そ

うだ〟[1] 三項目の使用・理解に生じた問題点をより明確的、なおかつ日本語学習者の理解を助けるとなることを目的とし、

（一）「語」の複数の意味に共有される「意味的連続性の要素」[2]（例：らしいの「典型／推量／伝聞」）で、語の性格・特徴を形作る「意義素性」[3]

（二）「意義素性」が文脈の中で具体化された「意味」

（三）「意味」をもつ語が使用される際に聞き手の中に生み出される「表現効果」

という三つのレベルから語を分析することを提案し、表現効果に対応する日本語教育現場の指導及び中国語話者の誤用について検討した。

〝好像（hǎoxiàng）〟に関する先行研究は玄（一九九三a）（一九九三b）、費（一九九五）がある。玄（一九九三a）では、広義蓋然性を表す副詞を意味の側面から類型化し、中国語の〝好像〟と〝似乎〟が（話し手が知覚している周囲の状況から証拠・根拠を得ていることを示す）Bタイプとみなされた。さらに玄（一九九三b）では、副詞の〝好像〟と〝似乎〟はそれぞれ蓋然性判断を表すタイプと、単に類似していることを表すタイプがあると言及し、〝好像〟と〝似乎〟の違いを考察した。費（一九九五）では、〝好象〟の意味用法を三つに分け（Aある事物が他の事物に似ている、あるいはある事物を比較の対象として、他の事物に譬える／B推量判断或いは感覚的（直感的）な判断、明確に判定しない、婉曲な語気を表す／C様態をあらわす）、中国語の〝好象〟とそれに対応する日本語の〝ようだ〟、〝らしい〟、〝そうだ〟、〝みたいだ〟の対応関係を検討した。[4]

玄（一九九三b）では、蓋然性判断を表すタイプの〝好像〟は話し手の自らの知識に基づいての推論は行われず、視覚によるもの、聞いたことや、自分の記憶に基づいてのことによる結論であると述べ、知覚、知識等によって、直接確認できず、推論によっておしはかるタイプの副詞〝大概〟との違いを主張している。一方、費（一九九五）では、

副詞の〝好象〟を用いた推量表現は日本語の助動詞の〝ようだ〟〝みたいだ〟〝らしい〟〝そうだ〟の品詞と違っていながらも、推量における意味用法の分類において、一致していると指摘し、〝好像〟を日本語に訳す時に、判断の根拠と主体の態度を考えなければならないと述べている。〝好像〟は根拠に基づいて判断を下すという点では、両者ともに共通しているが、根拠に基づいて推量するか、あるいは推論せず、基づいている根拠による結論を述べるか、という点では両者の見解は異なっている。

本研究では、これらの先行研究と成果をふまえ、〝ようだ〟〝らしい〟〝そうだ〟と〝好像（hǎoxiàng）〟について、筆者の考察とコーパス実例の分析を加えてさらに発展させたものである。

2、研究資料

本研究で用いたコーパスは、主として、筆者自作の日本語と中国語のコーパスである。日本語のコーパス作成に用いた資料は、日本の近代文学作品、新聞、雑誌などからである。すなわち日本語の〝ようだ〟〝らしい〟〝そうだ〟の実例を日本語の小説、新聞などを中心とするものから取り出して、統語的、意味的に分析して結論を導く実証的な研究を目指した。コーパスから収集した実例数は、現段階では〝そうだ〟は計二千六百八十例で、〝ようだ〟は計二千九百六例で、〝らしい〟は計二千三百十五例である。

中国語のコーパスに関しては、中国語文学作品と雑誌、そして一部は台湾中央研究院（ACADEMIA SINICA）が電子化した「中央研究院現代漢語平衡語料庫」[5]を使用している。また、実例の使用傾向を検証するために、中国社会科学基金と日本国際交流基金の研究助成で公開している「中日対訳コーパス」[6]を購入して、研究に使っている。コーパスから収集した実例は、現段階では〝好像〟は計一万七千二百八十例である。

分析方法については、コーパスから〝好像〟を含む文を抽出して、〝好像〟の出現位置、他の成分との共起可能性、

発話される状況、判断の根拠などに基づいた分類をし、それらに考察を加えた。

3、研究成果及び結論

先行研究において〝ようだ〟と〝らしい〟の違いについての解説は主に「主観的・客観的な判断もしくは根拠／直接的・間接的情報もしくは根拠」、「責任を持つ意識／持たない意識」、「話し手の心的距離」、「発話主体の心的態度＝〈ひきよせの態度／ひきはなしの態度〉」などが挙げられ、定義付けははっきりと明示していないところもあるように思われる。そのほか、〝ようだ〟と〝らしい〟の違いについて触れたものの、具体的な説明（置き換えの基準・使用禁止の原則・何のため〈目的〉に使うかなど）がなされていないことが見受けられる。本研究は日本語の〝ようだ〟〝らしい〟〝そうだ〟について、まず〈意味の連続性〉の視点に立ち、用例分析から以下のような点を明らかにすることができた。

3、1 〝そうだ〟について、【典型的な様態】【話し手以外】【直前】【可能性（予測／見通し／比喩）】の用法がある。[7]

3、1、1 【典型的な様態】「外見（視覚・聴覚情報）に表されている人物、事物の性質（属性）・状況について、話し手自身は〈そういう様子が見える・感じる〉ことを述べる」

（4）温泉街を歩いてくる四人。重そうにしているさとみの荷物を持ってやる三上。

さとみ「ありがとう」

リカ「（見て）……あー、鞄重いな」

永尾「あー、重そうですね、おやつでも買って来たんですか？」

（坂元裕二『東京ラブストーリー』二八七頁）

3、1、2 【話し手以外】「現在目前にしている聞き手や第三者の感情感覚」

(5) 一郎「新しいママがくることはいやか」
正一「そんなことないよ、ただ……」
一郎「ただ……何」
正一「パパはあんまりうれしそうじゃないもの」
(倉本聡『君は海を見たか』一一三頁)

3、1、3 【直前】「話し手が目前にある兆候(きざし)から、そのできごとがすぐにも起こる・実現される状態にあるという予測」

(6) ハートスポーツ・事業部(夕方)
永尾、窓の外を見て……
永尾「雨降りそうだな」 永尾、バッグとカサを持って、「お先失礼します」と、出ようとすると……
(坂元裕二『東京ラブストーリー』九三頁)

3、1、4 【可能性(予測/見通し/比喩)】「焦点の人物や事物自体が、ある潜在的能力・属性を持っている可能性に対する推測」

i 【予測】「話し手が現実の中に存在する焦点の人物や事物に対して、〔〈このような状態になる/いる〉・〈このような事態が起こる〉・〈このようなことをする〉のでしょうという予測〕に基づく判断を述べる」

(7) 長女の結婚式が挙げられる日、私は遅い朝食をすませると、すぐ書斎にはいった。居間の方には何かと人の出入りが多く、男の受け持つ仕事はなさそうだったので、邪魔にならぬように、自分の部屋に引き揚げさせて貰っ

たのである。

（井上靖『わが一期一会』二九～三十頁）

ii【見通し】「世間の情勢・成り行きの状況から、このようなことが起こりうるという一般的な意見・傾向を反映する予測」

（8）スポーツ人気を二分するプロ野球とJリーグ。巨人の開幕ダッシュもあって視聴率ではプロ野球がJリーグを大きく上回っているが、テレビCM界に目を転じるとJリーガーが野球選手を圧倒している。～中略～電通は「野球も最近になって、かすかに元気が出てきそうな兆しがある」とは言うものの、当分はJリーガーの天下が続きそうだ。

（産経新聞一九九四・五・二七）

iii【比喩】「現実の中において起こりえない出来事であるが、その〈起こる可能性があるように思わせるぐらいの状態にある〉心境や事柄を譬える」

（9）椅子の背にかけたツイードのジャケットを肩にかけながら、三井達郎は椅子から腰を上げた。～中略～「どうせ断るんだろうけどさ、一杯、俺とつきあう？」心臓が喉から飛び出しそうだった。胸の鼓動を相手に聞かれまいと、麻衣子が反射的にいった。「断られるとわかってるんなら、聞かないことよ」断腸の思いとはまさにこの思い。

（森瑤子『世にも短い物語』二四七頁）

〝そうだ〟の四つ分類に共通している部分―話し手自身にとって、「焦点の人物・事物が持っている属性（ありさま）・前触れ・状態から、話し手に〈そのような結果（事態）になる〉という予測・想像を引き起こさせる（状態を思わせられる）」という「意義素性」を持つことが考えられる。こうした【典型的な様態】の基本的な用法から、【話し手以

外】の感情に対する推測、そして【直前】【可能性】に関する人物や事柄、状態の予想・推量である。いわゆる「様態表現」の〝そうだ〟は実に基本の「様態」からだんだんと「推量」の領域に入り、〝ようだ〟と〝らしい〟の推量領域に近づいてくる部分があるように思われる。このように〝そうだ〟はやはり【様態】以外、〈予測する〉という〝ようだ〟と〝らしい〟の【推量】に近い側面的機能を持ちうる、つまり、【意味的連続性の要素（意義素性）】を帯びて用いられていると思われる。またこうした意味・機能が使用される際に聞き手の中に生み出される「表現効果」もまさに〝そうだ〟の多様な表現形式を生んだとも言えよう。[8]

3、2　〝ようだ〟について、【比況】【推量】【婉曲】の用法がある。

3、2、1　【比況】［定義］「ある事物の性質・形状・様子・状態などを表現するのに、ほかの類似性を持つものを借りて、両者は類似の形態・性質などを持っていると、話し手が判断していることを表す」

(10) 若い時から今日まで、人生というものについて語った言葉にはたくさんお目にかかっている。～中略～人生は夢のようだ。人生は朝露のようだ。こうした言葉をいくら聞いても、なるほどそういうものであるに違いないと思うだけである。

（井上靖『わが一期一会』一二五頁）

3、2、2　【推量】［定義］「はっきりわからない事物の事情や人の考え・感情などを、ある事実・情報から原因・結論を導き出す行為」

(11) 和賀「（ダンボールを示し）先方は夕方には受け取りたいと言ってる。それまでに頼むよ」
永尾「はい……」
永尾、ダンボールを開けて見る。

和賀「……どうだ？　疲れがきてるようだな？」
永尾「はあ……このところ、接待だ何だで忙しかったもんで」（坂元裕二『東京ラブストーリー』一四七頁）

3、2、3 【婉曲】【定義】「ある事柄について、話し手が〈事実は～だ〉と断定的に言い切ることを避け、〈事実は～だと私にはこのように思われる・判断される〉を用いる表現」

(12)「四歳で方程式の解ける子に育てた」といった類の本も世に出ているようですが、四歳で方程式の解ける子、四歳でパンツをずらしたまま駆けずりまわる子と、どちらがおもしろいでしょう。パンツずらしのほうがおもしろいにきまってます。そして私はおもしろいほうが好きです。
（柴門ふみ『フーミンのお母さんを楽しむ本』まえがき　四頁）

〝ようだ〟では、〈話し手における判断：情報によると、話し手には～と判断される〉という要素が【比況】【推量】【婉曲】に共通する意味特徴として挙げられる。

3、3 〝らしい〟について、【典型】【推量】【伝聞】の用法がある。

3、3、1 【典型】「いかにもその人物や事物の自体にふさわしい性質や状態を備えている状況にある」

(13) 私の父は、「子供というものは子供らしいのがいいのではない。早く大人らしくなりなさい」という意味の言葉を、折にふれて私たちに語った。普通の親の言い方とは大分違っていた。
（湯川秀樹『現代の随想二九・湯川秀樹集』一二〇頁）

3、3、2 【推量】「はっきりわからない事物の事情や人の考え・感情などを、ある事実・情報から原因・結論を導き出す行為」

(14)「もしもし。さつきさんはいますか。」聞きなれない、女性の声が私の名を呼んだ。「はい？私ですが。」首をかしげて私は言った。～中略～「突然ですけど、今ヒマかしら。出てこれないかあ。」「ええ…いいですけど。どうして？どうしてうちがわかったの？」私はおろおろした声で言った。電話の向こうは外らしく、車の音が聞こえる。

（吉本ばなな『キッチン』一八七～一八八頁）

3、3、3 【伝聞】「（話し手の意見・判断ではなく）情報によると～である」

(15) 最近のＲＳＰＢ（王室野鳥保護協会）の発表によると、少しずつイギリスの野鳥の分布も変っているらしい。～中略～以下イギリス野鳥を多いものから順に上げると、スズメ、アオガラ、ブラックバード、カモメ、ズアオトリ、コマドリ、アオカワラヒワ、シジュカラ、カラスとなるらしい。これが今年のＲＳＰＢの発表した順位である。

（出口保夫『英国生活誌Ⅰ復活祭は春風に乗って』二七頁）

〝らしい〟では【推量】【典型】【伝聞】に共通する意味的特徴として（情報による判断：情報によると、必然的・自然にこういう結果になる）という要素が挙げられる。

3、4 〝ようだ〟と〝らしい〟の違いについて

〝ようだ〟：いままで持っている既有知識や経験から、私の判断では～だと確信し、個人以外の人がどう考えるかがこの結果判断には影響を及ぼさない姿勢を示唆し、聞き手に判断の余地を与え（あなたにどう思われて

いるかがわからないが）感情的な対立を避け述べられている内容については責任を持つことになる。意味の連続性として、推量・比況・婉曲の各領域の特徴も帯びており、話し手自身による主観性の強いものと感じられる効果を聞き手に与えている。

〝らしい〟：私の意見ではない／他人がそのように言っていることだから、これは一般的な意見であり、自分の判断を保留し、相手との感情的な対立を避け、責任の回避をしている。また、意味の連続性があるため、推量・伝聞・典型の表現の各領域の特徴も帯びており、「他人の意見では～だ」ということを示唆し、述べられている内容の客観性を強調しているような効果を聞き手に与えている。

これら三つの用法に共通する意味特徴として、〈情報による判断：情報により、必然的に・自然的にこういう結果になる〉という要素があげられ、そして【推量】における〝ようだ〟と〝らしい〟の違いはこうした意味的特徴の違いによるものであることがわかった。また、こうした意味的特徴を持つ〝ようだ〟と〝らしい〟が用いられると、発話の際に導き出される（派生される）二次的要素があって、話し手自身の発話意図による〝ようだ〟と〝らしい〟の使い分け方もここで違ってくる。〝ようだ〟と〝らしい〟の置き換えについても、話し手が聞き手にどういう効果を与えたいかによることが今回の考察で分かった。

これまでの先行研究では、〝そうだ〟〝ようだ〟〝らしい〟について、実にいろいろな議論がなされ、いろいろな視点からそれらの使用における違いを見出す方法を考えられてきた。だが、主に、それらの意味的な違いに注目することにより、説明に困難が生じて、矛盾しているものも少なくないように思われる。こうした困難を避けるために、筆者はまず、〝そうだ〟〝ようだ〟〝らしい〟のそれぞれが持つ一番基本的な意味・機能と、派生的な意味から生じた違いを明確にした上で、初めてそれらの違いを使い分けることができると考える。

一方、中国語の〝好像〟は Li & Thompson（一九八一）の分類に従って、用例をチェックした結果、大きく動詞と副詞、そして従属節に使われる場合に分類した。コーパスの実例に基づいて分析した結果、以下のような機能に分類することができた。[9]

3、5　動詞―①「AがBに似ている」という状況を表す（N_1はN_2に似ている。／N_2の様相を呈している。）。〝好像〟は動詞用法がある。主語と目的語の間におかれ、SVO構文のVになる場合であり、〔S 好像 O〕のように表される。

(16) 你好像你媽媽喔。
（あなたはお母さんに似ているね）　（三毛「傾城」）

(17) 天上的白雲好像綿花糖（一様）。
（雲は綿飴に似ている／雲は綿飴のようだ）　（席慕蓉「有一首歌」）

(18) 好像認識了一世紀那麼的熟稔。
（まるで一世紀も前から知り合いであるかのようであった）　（三毛「萬水千山走遍」）

副詞―②推量用法

(19) 琦君：〝好像大家都出去了〟
（みんな出かけたようだ）　（琦君「夢裏花落知多少」）

副詞—③断定の回避

(20) 〝你好像不大喜歓！〟
(あまり好きじゃないようね)　(岑凱倫「八月桜桃」)

副詞—④記憶・考えを意味する動詞の補文に出る用法

(21) 我記得好像帯了兩件旗袍回來。
(二枚のチャイナ・ドレスを持って帰ってきたようだと覚えているんだけど)　(瓊瑤「剪不断的郷愁」)

副詞—⑤伝聞用法

(22) 聴説這本書好像賣得非常好。
(聞くところによると、この本が結構売れているそうだ)　(鄭華娟「萊茵情人」)

副詞—⑥語用論的用法

a 「責任逃れ・責任回避」

(23) 啓太：昨晩舒文和誰出去、去什麽地方？
舒云：好像是和隔壁家的語晴出去看電影。
(啓太：昨日の夜、舒文は誰と、どこに出かけたの？
舒云：隣の家の語晴と、映画を見に出かけたようだ)　(岑凱倫「金冠天使」)

b 「皮肉・冗談」

(24) (つい今朝スピード違反で、警察官に捕まえられた女性が、再びスピード違反で同じ警察官に捕まえられた場面の話)

警察：〝小姐、我們好像是第一次見面吧〟　(三毛「傾城」)

(お嬢さん、私たちは初対面のようですよね)

c 「丁寧度」

(25) (湘琴拿起便當盒對著直樹説)　伯母好像放錯了。　(「悪作劇之吻」)

(湘琴はお弁当箱を取り出して、直樹に向かって言った：おばさんが入れ間違えたようだ)

本稿では大量のコーパス資料を用いて、〝ようだ〟〝らしい〟〝そうだ〟と〝好像(hǎoxiàng)〟の語義的研究を行い、その多義性を明らかにし、どちらにも推量用法があることを明らかにした。ついで、その中の推量用法の実例を網羅的に検討し、それぞれの機能を明らかにした。得られた結果を、さらに類型論の見地から再検討した。日本語の表現については、〈意味の連続性〉の視点に立ち、〝ようだ〟、〝らしい〟、〝そうだ〟の性格を明らかにすることができた。また、発話の際に導き出される(派生される)二次的要素があって、話し手自身の発話意図による〝ようだ〟と〝らしい〟の使い分け方もここで違ってくる。推量表現における〝好像〟は主として眼前の事実から、その原因となった事象を推量する。さらに〝好像〟は、五感により知覚された眼前の事実を述べ、その事実を引き起こした原因として最もありうる事態を示す場合に使われていることがわかった。[10]

おわりに

今回の研究では〝みだいだ〟の機能と意味用法、〝そうだ〟と〝ようだ〟との関わりについての考察、〝ようだ〟と〝らしい〟の置き換えに関する詳しい基準の記述ついてなどは論じる余裕がなかった。また、本稿では、〝ようだ〟〝らしい〟〝そうだ〟しか扱っていないが、さらに多くの語を取り上げて、日本語の文法解釈を体系的に記述することも今後の課題である。本稿の意味機能の分類はまだ十分とは言えないものの、分析した結果については、日本語教育への応用ができると思われる。今後も更に研究を深め、蓋然性を表す現代日本語の表現と中国語の表現との対照研究を進めたい。最後にこの研究成果を日本語教育及び日中対照研究に反映し、役立てればと心から願っている。[11]

（台湾文藻外語学院日本語文系助理教授）

註

（1）「そうだ」の意味・用法・分類に関する先行研究も豊田（一九八七）、北原（一九八九）、森田（一九九〇）中畠（一九九一）、田野村（一九九二）、野林（一九九九）、菊地康人（二〇〇〇）などがある。

（2）意味的連続性による「ようだ」と「らしい」の意味的違いについて触れたものに田野村（一九九一）がある。その後中溝・小川・方（一九九五）でも同じ立場で「そうだ」「ようだ」「らしい」三者の「推量」の意味的違いについて検討した。ここでの「意味的連続性の要素」とは、いままで切り離されて説明してきた複数の意味（多義的意味）を持つ表現が、そのいくつかの意味の間には実に関連性を持ち、互いの意味的特徴を帯びて、互いの意味領域に重なってくるということがあるように思われる。

（3）本稿では複数の意味に共有され、語の性格・特徴を形作る要素を「意義素性」と呼び、この「意義素性」が文脈の中で具体化される意味内容を「意味」と呼ぶ。

（4）〝好像〟と〝好象〟は繁体字と簡体字の表記の違いによるもので、意味はまったく同じである。各論文の著者の意志を尊重し、字体をそのまま使わせていただくことにした。

（5）「中央研究院現代漢語平衡語料庫」（Sinica Corpus）とは、台湾中央研究院（ACADEMIA SINICA）が世界に先駆け、中国語の語

彙（一九九七年現在計五百万字）を品詞別に分類し、電子化したコーパスシステムである。一九九七年から台湾国内及び海外の研究機関に学術研究用に公開している。http://www.sinicaedu.tw/SinicaCorpus/

(6) 「中日対訳コーパス」は、中国社会科学基金と日本国際交流基金の研究助成による共同研究プロジェクト「中日対訳コーパスの構築と応用研究」の成果として、広く多分野の研究に利用されることを想定して開発されたものである。その収録内容は、文学作品については中国二十三篇、日本二十二篇とその訳本を合わせて一〇五件（一一、三〇三、〇〇〇字）、文学以外については中国十四篇、日本十四篇、日中共同二篇とその訳本を合わせて四十五件（五、七四六、〇〇〇字）である。「中国語対訳コーパス」を除く、すべての中国語の実例は筆者自身がパソコンに入力し、データベース化したものである。また、本研究の中国語実例の日本語訳は「中日対訳コーパス」を除いて、すべて筆者による。また、このコーパスは筆者の博士論文に使われたデータをさらに例文を増やし、文法、そして意味機能を再分析したものである。

(7) 「そうだ」の意味用法について、近藤ゼミグループ（一九九三）では、「そう」によって「予想」（＝（発話時）話し手にとって（体験的に）確認が不可能なことについての推量）される内容を、【直前】【話し手以外】【可能性】の三つに分けて定義を明示した。「そうだ」に関する具体的な例示や説明の付け加え、用いられる品詞の種類と接続の形などには至らなかった。筆者は近藤ゼミグループ（一九九三）の研究成果を引き続き、更に【典型的な様態】という項目を取り上げ、「そうだ」の意味用法として検討し、また【可能性】に関する下位分類を試みた。

(8) 野林（一九九九）の「運用面における話者の意識・態度」という記述は本稿が提案する「そうだ」の「表現効果」とほぼ同一であると思われる。

(9) 方斐麗（二〇〇八）麗澤大学大学院平成二十年度博士論文『現代中国語における推量表現の研究―〝好像（haoxiang）〟と〝大概（dagai）〟を中心に―』（未刊行論文）の実例データを再分析し、その分類をさらに発展させたものである。

(10) 〝好像〟のほうが、五感を頼りに、現状から具体的な事態を推量する性質を持っている、つまり現状をどう解釈するか、現状はどう成り立っているのかということを解釈する。このことから〝好像〟は命題の真理値にかかわる話者の態度を表わすモダリティ、すなわち命題的モダリティ（Propositional modality）に該当すると思われ、その中で〝好像〟は証拠性モダリティ（Evidential modality）に近い特徴を持っていると考えられる。

(11) 本稿の内容の一部は、方斐麗（二〇一〇）が　世界日本語教育大会ＩＣＪＬＥ二〇一〇で口頭発表した研究結果をもとに、再修正及び再分析した資料を使い、さらに発展させたものである。

参考文献

大場美穂子（一九九九）「いわゆる様態の「そうだ」の意味と用法」『東京大学留学生センター紀要』九
菊地康人（二〇〇〇）「いわゆる様態の「そうだ」の基本的意味―あわせて、その否定各形の意味の差について―」『日本語教育』一〇七
北原保雄（一九八九）『講座日本語と日本語教育　第四巻日本語の文法・文体（上）』明治書院
玄宜青（一九九三a）「広義蓋然性を表す副詞の体系」『中国語学』二四〇　日本中国語学会
玄宜青（一九九三b）「〝好像〟と〝似乎〟」『中国語研究』第三十五号
国立国語研究所（一九七二）『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
近藤ゼミグループ（一九九三）小川郁子・中溝朋子・方斐麗研究グループ「『そう』『らしい』『よう』」東京外国語大学大学院平成五年度
　近藤安月子教授「日本語教授法」ゼミ論集（未公開レポート）
鈴木重幸（一九七二）『日本語の文法・形態論』むぎ書房
寺村秀夫（一九八四）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
田野村忠温（一九九一）「『らしい』と『ようだ』の意味について」『言語研究』十　京都大学言語学研究会
田野村忠温（一九九一）「現代語における予想の『そうだ』の意味について―『ようだ』との対比を含めて―」『国語語彙史の研究　十二』
　和泉書院
豊田豊子（一九八七）「『そうだ』（様態）の意味、用法と否定形（一）」『日本語学校論集』十四　東京外国語大学外国語学部付属日本語
　学校
中畠孝幸（一九九一）「不確かな様相―ヨウダとソウダ」『三重大学日本語学文学』二
中溝朋子・小川郁子・方斐麗（一九九五）「ラシイ・ヨウダ・ソウダ―意味素性・意味・表現効果の違いと教育への応用―」『平成七年度
　日本語教育学会春季大会予稿集』
野林靖彦（一九九九）「類義モダリティ形式「ヨウダ」「ラシイ」「ソウダ」―三水準にわたる重層的考察」『国語学』一九七　国語学会
早津恵美子（一九八八）「『らしい』と『ようだ』」『日本語学』四月号　明治書院
費燕（一九九五）「日本語の「ようだ」「みたいだ」「らしい」「そうだ」と中国語の「好象」」『日本語学論説資料三十二～一』論説資料保
　存会
方斐麗（一九九五）『日本語学習者のための文法解説の試み―「そうだ・ようだ・らしい」について―』東京外国語大学　平成六年度地
　域文化研究科修士論文（未刊行論文）
森田富美子（一九九〇）「いわゆる様態の助動詞「そうだ」について―用法の分類を中心に―」『東海大学紀要』十　留学生教育センター
Li, Charles N. & Sandra A. Thompson (1981) *MANDARIN CHINESE. A Functional Reference Grammar.* University of California Press.

コーパス

「中央研究院現代漢語平衡語料庫」(Sinica Corpus) http://www.sinica.edu.tw/SinicaCorpus/

「中日対訳コーパス」二〇〇一　中国社会科学基金、日本国際交流基金